

2025年11月6日、「省エネ診断」を実施しました

本日は、エネルギーの無駄や非効率な箇所を調査する「省エネ診断」を実施しました。効果的な省エネ施策を導き出すことが目的です。

省エネ診断では、リコージャパン(株)の専門家が工場及び事務所内を3時間程掛けてウォークスルーで調査し、照明や空調などを細かく確認していきます。

当社では、主に以下の事柄を確認しました。

- ・ 電力を使用する設備(モーター、ベルトコンベア、コンプレッサーなど)は効率的に動作しているか？
- ・ 工場内に無駄な熱を放出する設備はないか？ またはその熱を再利用する方法はないか？
- ・ 焼成窯(ガス消費量が非常に多い)をより効率的に運用することは出来ないか？
- ・ 照明は効率的に設置されているか？(必要以上に明るすぎないか？)

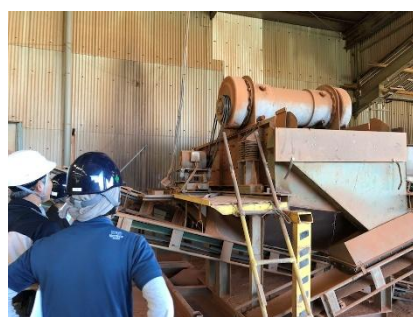
以下は省エネ診断の様子です。



キュービクルを確認



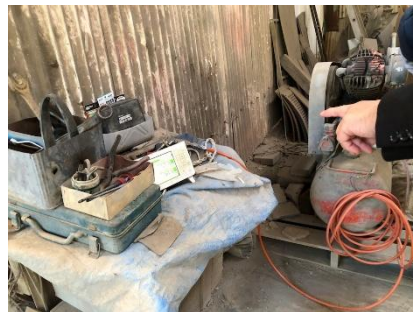
工場内の照明を確認



各モーターの稼働状況を確認



ベルトコンベアの稼働状況等も確認



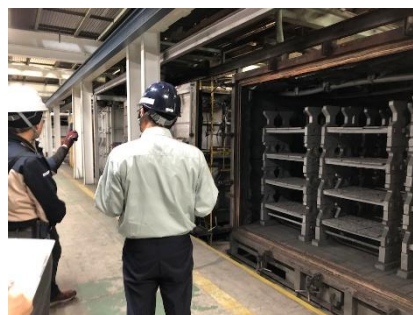
デマンド測定器の運用状況を確認



成型工程ではスポットクーラーを活用



コンプレッサーの稼働状況を確認



焼成窯の運用状況を確認



粉体ふるい機の動作を確認

当社の省エネの取り組み

当社では既に以下の様な取り組みをされています。

- ・ 第一工場の一部を除き、照明のLED化は完了しています(残りも近々LED化する予定)。
- ・ 第一工場の照明は、4分割で点灯出来るように配線されています(必要な箇所だけ点灯が可能です)。
- ・ 配合供給機(粘土などの原料を混ぜ合わせる設備)はインバータ制御されています。

診断後の所感

省エネ診断後、リコージャパン㈱から以下の所感が述べられました。

「明らかな無駄はないと思われる。ベルトコンベア周辺のセッティングを変更すれば、電力低減に繋げられるかも知れない。」

「第2工場のキュービクルには雨水対策をした方が良いと思われる。またデマンド警報が鳴った際、スイッチオフする設備の順序をルール化しておいた方が良い。」